

八 議 基 第 5 号
令和 6年12月12日

八雲町議会議長 千葉 隆 様

航空自衛隊八雲分屯基地有効活用
及び周辺整備事業推進特別委員会
委員長 黒 島 竹 満

委員会調査報告書

令和6年6月7日、第2回定例会において付託を受けた航空自衛隊八雲分屯基地有効活用及び周辺整備事業の推進に関する調査について、調査の結果を次のとおり報告する。

記

1 調査事項

航空自衛隊八雲分屯基地有効活用及び防衛施設周辺整備事業の推進に関する調査について

2 調査の経過

本委員会は、令和6年6月7日に委員会設置以降、防衛省等関係機関への調査、情報収集及び要望活動を行うなど、本委員会の目的に沿って活動を進めてきた。

その調査活動は次のとおりである。

(1) 会議等における活動

①令和6年6月7日 委員会開催

委員長、副委員長の互選を行い、委員長に黒島竹満委員、副委員長に大久保健一委員を選任し、議長へ報告を行った。

②令和6年7月18日 委員会開催

委員会の調査活動及び今後の要望活動日程の概要を協議し、北海道防衛局、航空自衛隊三沢基地、防衛省関係機関に対する要望活動は、町と議会が一体となり取り組む必要があることを確認し、要望事項の検討に

あたって関係課職員の出席を求め、要望事項と町の施策との整合性、町が要望書を提出する令和6年度以降の基地有効活用及び防衛施設周辺整備事業に関する要望事項について説明を受けるとともに、内容について協議を行った。(後日、北海道防衛局より要望にあたっては令和7年度事業のみで整理するよう連絡を受けた。)

③令和6年8月21日 正副委員長による要望活動の最終調整

北海道防衛局への出向による要望活動の打合せを行い、防衛省及び航空自衛隊三沢基地への出向による要望活動について最終協議した。

④令和6年12月10日 委員会開催

調査、要望活動の結果を取りまとめ、報告書の内容等について協議を行った。

(2) 出向等による調査活動

①令和6年6月13日 八雲分屯基地訪問

八雲町議会に特別委員会が設置されたことを報告し、今後の要望活動の方法について意見交換を行った。

前回、前々回はコロナ感染防止の観点から書面对応に留めたが、今回は以前のように、初めに北海道防衛局への訪問を実施し、その後に航空自衛隊三沢基地及び防衛省へ直接お伺いし情報の収集や要望活動を行うことが確認された。

また、防衛省及び航空自衛隊三沢基地への要望書提出訪問の日程について当委員会からの打診を行い、八雲分屯基地司令から三沢基地航空祭2024年の開催日に併せての実施を検討することや自衛隊を取り巻く情勢と八雲分屯基地の現状について説明を受けた。

○参加者：千葉議長、黒島委員長、大久保副委員長

○随行者：野口議会事務局長

②令和6年6月18日 八雲分屯基地訪問

八雲分屯基地司令から、「基地有効活用に関する要望書」の内容に関して、助言を受けた。

③令和6年6月19日 八雲分屯基地訪問

八雲分屯基地司令から、防衛省及び航空自衛隊三沢基地への要望書提出訪問の日程として、9月8日に開催する三沢基地航空祭2024年に併せての実施が可能であることでの説明を受け、翌日の9日を防衛省訪問として日程調整の確認を得た。

④令和6年8月26日 北海道防衛局訪問

福島北海道防衛局長、本多次長と面談。内容を説明し、各事業について要望を行った。

○参加者：岩村町長、黒島委員長、大久保副委員長

○随行者：川口政策推進課長

⑤令和6年9月8日～9日

ア 北部高射群、北部航空方面隊司令部表敬訪問

イ 航空幕僚監部、整備計画局、地方協力局訪問

ウ 道内選出国會議員訪問

それぞれ関係機関を訪問し、八雲分屯基地有効活用及び基地周辺整備事業について要望を行った。

○参加者：岩村町長、千葉議長、黒島委員長、大久保副委員長

○随行者：川口政策推進課長（八雲分屯基地辰巳司令、鏑木総務係長）

3 主たる調査・要望事項と回答

(1) 八雲分屯基地有効活用関係

①飛行場機能の整備充実について

(回答) 滑走路の整備は非常に多額な事業費により、優先順位的に厳しい状況にある。滑走路は最低2km以上必要で、3km級がベストであり、滑走路延長は滑走方法など防衛省全体として検討する事項であると考えている。

②八雲分屯基地の特性を活かした拠点機能の整備充実について

(回答) 東日本大震災の際は、ヘリで物資輸送を行ったことから、今後においても災害派遣の拠点施設として活用するため、定期的メンテナンスに努める。

地産地消については、各分屯基地も道産米を調達しており、その他ホタテ等の地元食材の積極的な活用を進めたい。

(2) 防衛施設周辺整備事業関係

①道路改良工事補助事業（内浦大新線舗装補修工事 令和7年度要望）

(回答) 内浦大新線の整備についてはしっかり対応していく考えである。

②町立病院における医療機器導入の補助対象化について

(回答) 病院の補助対象化は、防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律第8条に定めている要件にあてはめるのは難しいと考える。なお、昨年度から訓練交付金が創設され、ソフト事業にも柔軟に活用ができ、医療機器の購入にもあてられる。今後、航空機訓練などの対象の際は活用していただきたい。

4 調査報告のまとめ

政府は、「国家安全保障戦略について」（令和4年12月16日国家安全保障会議決定・閣議決定）の中で、歴史の転換期において、希望の世界か、困難と不信の世界かの分岐点に立ち、我が国は戦後最も厳しく複雑な安全保障環境の下にあっても、安定した民主主義、確立した法の支配、成熟した経済、豊かな文化を擁する我が国は、普遍的価値に基づく政策を掲げ、国際秩序の強化に向けた取り組みを確固たる覚悟を持って主導していくとしております。

また、日本の防衛力整備の指針となる「国家防衛戦略について」（令和4年12月16日国家安全保障会議決定・閣議決定）の中で、国民の生命・身体・財産の保護に向けた取り組みでは、我が国への侵攻のみならず、大規模テロや原子力発電所を始めとする重要インフラに対する攻撃、大規模災害、感染症危機等は深刻な脅威であり、自衛隊防衛力の抜本的強化に加え、国の国力を結集した総合的な防衛体制を強化していくとしております。

一方、国の令和7年度の防衛関係費概算要求額は、8兆5,389億円で前年度比10.3%、8,004億円の増であり、令和7年度においては、防衛力整備計画の3年度目となる概算要求では、2027年度までに防衛力の抜本的強化を実現するため、これまでの事業の進捗状況により増額要求しております。この背景には、国の財政事情は厳しい状況に変わりありませんが、ロシアのウクライナ侵攻の長期化、そして北朝鮮は、核・ミサイル開発を加速化していることがあり、日本の安全保障をめぐる環境は、厳しさを増している対策から、有効な防衛力を確保するとしております。

そのような中で、八雲町では、八雲分屯基地があるという現実を踏まえ、これまで基地周辺地域との調和を図りながら、基地と共存・共栄するまちづくりを進められてきております。基地が存在することによって八雲町が受ける経済効果及び財政面での効果は、非常に大きなものがあり、特に防衛施設周辺整備事業においては、これまでも消防施設設置助成事業、道路改良工事補助事業など約43億6,500万円の補助金を受けて事業を実施してきており、町の発展に大きく貢献されております。また、災害時には自衛隊の迅速な対応が可能となり、地域住民の安全を守るための重要な拠点として機能しています。

今後においても基地のある町として、基地に対する周辺住民の十分な理解と協力を得ながら、八雲町の発展と活性化のため、関係機関との協調を図りながら進めます。なお、情報の収集、調査、更に継続した要望活動につきましては隔年で実施してはりましたが、毎年の実施がより効果的な取り組みになることでの指摘を受け、今後に向け町議会として検討を進めております。

以上、本委員会の調査が終了しましたので、本報告書をもって報告いたします。